

記載例

中間前金払認定請求書

平成〇〇年10月23日

この記載例の場合は、工期が6月16日から翌年2月28日までの258日間であり、工期の2分の1である129日を経過した日は、6月16日から130日目の10月23日となるので、認定請求はこの日以後にしかできません。
 (また、中間前金払請求要領の「2, 中間前金払の認定請求をすることができる場合」の(2)及び(3)の要件を全て満たす必要があります)

美馬郡つるぎ町〇〇字〇〇 〇番地
 ㈱〇〇建設
 代表取締役 〇〇 〇〇 印

次の工事について、つるぎ町公共工事前金払及び中間前金払実施要綱（以下「要綱」という。）第4条第1項の規定に基づき中間前金払の認定を請求します。
 なお、中間前金払の支払を請求した場合は、この工事に関し要綱第6条第2項の規定による場合を除き、部分払の請求はいたしません。

工 事 名	平成〇〇年度 〇〇〇〇〇工事
工 事 箇 所	つるぎ町〇〇字〇〇
請 負 代 金 額	¥〇, 〇〇〇, 〇〇〇円 当該年度の出来高予定額 ()
契 約 年 月 日	平成〇〇年6月15日
工 期	平成〇〇年6月16日 ~ 平成〇〇年2月28日 当該年度の出来高予定額に対応する工事実施期間 (平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日)
備 考	

この欄は、下記の注2に該当する場合のみ記載し、それ以外は、空欄として下さい。

認定請求日時点で請負代金額が変更になっている場合は、変更後の金額を記載して下さい。

この欄は、下記の注2に該当する場合のみ記載し、それ以外は、空欄として下さい。

- 注1 要綱第8条に規定する「工事履行報告書（様式第2号）」を添付すること。
- 2 継続費又は債務負担行為に基づく複数年度契約の場合は、請負代金額の欄に請求しようとする年度に係る出来高予定額を、工期の欄に当該年度の出来高予定額に対応する工事実施期間を併せて記載すること。

記載例

工事履行報告書

工 事 名	平成〇〇年度 〇〇〇〇〇工事		
工 事 箇 所	つるぎ町〇〇字〇〇		
工 期	平成〇〇年6月16日	平成〇〇年2月28日	
日 付	平成〇〇年10月23日 現在		
月 別	予定工程 (%)	実施工程 (%)	備 考
6 月	5 %	0 %	認定請求時点で工期が変更になっている場合は、変更後の工期を記載して下さい。
7 月	10 %	10 %	
8 月	25 %	25 %	要件を満たしている旨の記載をして下さい。
9 月	35 %	35 %	
10 月	45 %	50 %	認定請求日現在において、請求の要件を全て満たしました。
11 月	65 %	%	
12 月	80 %		この欄は、認定請求日現在の実施済分について記載して下さい。認定請求日現在において、実施済みの工程が50%以上であることが要件となります。
1 月	95 %		
2 月	100 %	%	
月	%	%	
月		%	
月		%	
特記事項			

認定請求日と同じ日付を記載して下さい。

認定請求時点で工期が変更になっている場合は、変更後の工期を記載して下さい。

要件を満たしている旨の記載をして下さい。

認定請求日現在において、請求の要件を全て満たしました。

この欄は、認定請求日現在の実施済分について記載して下さい。認定請求日現在において、実施済みの工程が50%以上であることが要件となります。

この欄は、工程表に基づいて記載して下さい。